令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立植水小学校 ）　　学校番号　０６１

【様式】

目指す学校像	○学びを創造し、一人ひとりが輝く学校　○安全・安心で、心地よい教育環境の学校 ○家庭・地域と連携・協働し、ともに歩む学校

重点目標	１　学ぶ楽しさや喜びが実感できる、基礎学力向上と体力向上を目指した授業の工夫と改善 ２　安全・安心な教育環境を整備し、共有・協働による組織的な教育活動の展開 ３　小中合同コミュニティ・スクールの事業推進、地域一体となって歩んでいく連携・協働の強化 ４　専門、得意分野を中心に力が発揮できる体制と資質向上につながる働き方改革の推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均は上回っているが、市平均はやや下回っている。基礎基本の正答率が上がり、無回答率が下がるとよい。 ○校内で実施したまとめのテスト等において、 国語：習得すべき漢字の読み書き 算数：基礎・基本的な計算 の正答率の全校平均点はほぼ変わっていない。 ＜課題＞ ○さいたま市学習状況調査の結果から、国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数「数と計算」に課題があるため、正確性や粘り強く取り組むことが必要である。 ○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問項目において、肯定的な回答がさらに上がるように家庭学習の充実を図る。 ○新体力テストの結果から、全校的に俊敏性や持久力に課題がある。	・基礎学力向上につながる授業の工夫改善	①効果的にＩＣＴ活用し、学習スタイルの進化、発展に努め、情報共有を図り、実践力を高める。 ②国語、算数において、ドリル学習を効果的に取り入れながら、計画的、継続的に実践し、定期的に見直し、改善を図っていく。算数では少人数指導を効果的に進めていく。	①効果的なＩＣＴ活用の授業を計画的、継続的に実施し、情報交換や共有によって各教科等で実践できたか。 ②国語、算数のまとめのテスト等で、基礎・基本となる項目において正答率の全校平均を上げることができたか。				
		・体力向上につながる授業、体育的活動の工夫	①４～６学年の教科担任制による体育専科や、中学校教員による補助等を効果的に活用していく。また、体育主任を中心に、情報提供や支援等で各学年の体育授業の充実を図る。 ②体力アップキャンペーンを学期１回以上定期的に計画し、効果的に実施することを通して、運動の生活化への意識を高める。	①運動量を確実に確保し、運動のよさにふれ、運動の楽しさ、心地よさが実感できる授業展開を計画的、継続的に実施できたか。 ②体力向上の取組（体力アップキャンペーン等）を学期に１回以上実施し、運動の生活化への意識を高めることができたか。				
2	＜現状＞ ○「学校生活が楽しい」関連項目において、肯定的な回答をする児童の割合が高い。 ○様々な不安などを抱えている児童や家庭などに対して、学校の対応が組織的に行われている。 ○施設設備の修繕したい箇所が複数ある。 ＜課題＞ ○不安を抱えていたり、自信が持てなかったりする自己肯定感の低い傾向にある児童に対してのフォロー体制の充実を図る。 ○児童一人ひとりが安全に対しての意識を高め、実践できる力を付けていく。 ○施設設備の修繕を可能な限り進めてはいるが、現状として思うように進んでいないところもある。	・個に応じたきめ細やかな支援の組織体制の充実	①報告、連絡、相談、見届けの徹底と情報共有、共通理解、共通行動を組織的に行う。フォロー体制を整え、必要に応じて専門職につなぎ、迅速、誠実、アフターケアで丁寧な対応に努める。 ②現状把握、課題等の早期発見、早期対応に努める。	①児童、保護者の学校に対するアンケートにおいて、「学校が楽しい」に関連する項目において、肯定的な回答が８５％以上になったか。 ②早期発見、迅速な対応を組織的に行い、報・連・相・見届けが徹底されているか。				
		・安全教育における児童の意識向上 ・安全な教育環境の整備	①日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底し、重大事故未然防止に努め、危機管理体制を確実に整えていく。学校全体で安全に関する継続的指導を進めていく。 ②安全教育に関する授業、生活、行事等を通して、児童が主体的に安全に対する意識を高められるようにする。	①定期点検や、日々の安全点検等を確実に実施し、確認、早期対応によって未然防止につなげることができたか。 ②これまでの防災教育の実践を生かし、児童の安全に対する意識を高めることができたか。				
3	＜現状＞ ○教育活動における保護者や地域の方の参加等は多少の制限がある中での実施ができるようになり、家庭や地域に教育活動の様子等の情報発信回数も増えてきている。 ＜課題＞ ○教育活動の通常実施が少しずつ回復してきたが、まだ制限下での実施が多かったため、工夫改善を図りながら実施していく必要がある。 ○コミュニティ・スクールの取組では、地域で目指す児童生徒の育成に向けて、事業等の情報発信と共有、地域一体となった事業の具体的な方策について進めていく必要がある。	・教育活動の情報発信、地域情報収集	①保護者や地域の方の学校行事等への参加、参画について、工夫改善を図りながら実施できるようにする。 ②学校だより等やリニューアルした学校ホームページを活用し、教育活動の情報や時期相応の子どもの活動等について、積極的、効果的に発信していく	①学校行事等について、工夫改善を図り、年間の実施回数が計画通り実施できたか。 ②学校だより等やリニューアルした学校ホームページが活用され、子どもたちの活動の様子などが定期的に、時期相応に情報発信できたか。				
		・学校運営協議会の充実とコミュニティ・スクール事業	①小中合同コミュニティ・スクールにおいて、地域ならではの取組と事業推進を図り、情報共有、情報発信に努める。 ②地域の特色を生かした連携事業を計画し、実施する。	①学校運営協議会等において、情報交換等を定期的に行い、連携を図って進めることができたか。 ②地域連携事業の計画を進め、年間で２回以上実施できたか。				
4	＜現状＞ ○授業におけるＩＣＴ活用が積極的に行われ、新たな学習スタイルが学校全体に広がり、様々な授業の展開ができるようになってきている。 ○専門、得意分野で力を発揮できるための教科担任制は効果がみられる。＜課題＞ ○新たな学習スタイルの開発を進めるにあたり、試行錯誤過程において、停滞してしまい、本来のやるべきことにたどり着かないこともある。 ○働き方について、業務が偏らないように調整していく。	・それぞれの力が発揮できる環境整備 ・資質向上につながる働き方改革	①ＩＣＴ活用における新たな実践を行った場合は研修等で情報の共有を図る。専門、得意分野における授業公開や実践報告などを通して、学校全体への活性化を図る。 ②業務が偏らないように調整を図り、デジタル化やペーパーレス化等を推進して量的、質的な働き改革に努めるとともに、学校全体のフォロー体制を整える。	①専門、得意分野等において、効果的なＩＣＴ活用を含めた授業実践を行い、情報交換を行いながら学校全体に広げることができたか。 ②自分に合った業務改善に積極的に取り組み、他の働き方改革も参考にしながら取り入れたりして、多忙感、負担感の減少につなげられたか。				